

モンゴロイド日本人の君はネグロイドマサイ族と友だちになれるか 異民族理解・異文化理解へのアプローチ

千葉県立生涯高等学校 小関勇次

はじめに

新学習指導要領地理Aのキーワードである、『異文化理解』については「地理的見方、考え方」と「地理的技能」をもって主体的に学び、捉えることを目標にしている。

新教科書は「カラー化」「ビジュアル化」が進み、資料性が豊かになっている。そして、内容の総量を減らし、「見方、考え方、技能」といった学び方の充実を図ることがポイントになっている。

この「ビジュアル教科書」を最大限利用し、『異文化理解』について「見方、考え方、技能」の他に「感性」を加えて捉えてみようとして実施してみた。

1 「地理的感性」について

アメリカの同時多発テロや北朝鮮の拉致問題について生徒の反応を聞くと、『民族、宗教、政治の違いによる必然的なものである。』というような感想があった。言い換えれば仕方がなかったようにも聞こえる。このような生徒のさめた絶望感に対して、もっと人間性を重視した教育が必要であると思うし、地理授業でも理性、感性を養うことの大切さを感じている。もし「地理的見方、考え方」の方向性が「地理的感性」ならば、少しでもその方向性を矯正しようと、生徒の価値観やビジョンの形成に役立つ資料、たとえば国際理解教育センターの資料などを活用し、授業を組み立ててみた。

2 民族の顔写真からのイメージ

質問1 彼らに君はどんな質問をするだろうか。

この民族はどの民族で、どこに居住し、どんな

生活をしているか、といった「地理的見方、考え方」の展開はよく使用されるパターンである。

これに質問1を加えることがポイント。言葉の違いや衣、食、住など生活の違い、環境の違いなど自分の「感性」からの異文化理解につながる。

3 「地理的感性」を養うメンタルトレーニング

この顔写真を利用して、「地理的感性」を養うために心のトレーニングを実施する。ねらいとするのは、生徒の“Open Mind”と差別と偏見の除去である。

質問2 君が好感をもてる、友だちになれそうな民族はどれか。(その理由)

ここでは顔写真の表情や衣装などから、生徒の心との距離をはかってみる。

異民族に対して自分が「親近感」をもつ民族と「違和感」をもつ民族をあげる。「親近感」をもてば興味、関心をもって接してみたいと思うし(友だちになれそう)、逆に「違和感」をもてば緊張を

感じてしまう。そして「親近感」と「違和感」がなぜ自分に起こっているのかを考えさせる。

ここで大切なことは、個人の好き嫌いのタイプは問題にしない。差別、偏見の除去を目的とする。したがって、人種、民族問題はもとより、過去の侵略、戦争、破壊、などの事例を取り上げ、これらが人種、民族に対する差別や偏見から引き起こされたものであることを強調しておく。

質問3 写真の人々を描写する好意的な形容詞をつけてみよう。

<生徒の例>

美しいノルウェー人 元気なマサイ族
誇りあるインディアン 器用なヤクート人
たくましいアボリジニー 辛抱強いインド人

人々を描写する好意的な形容詞<「未来を学ぼう」国際理解教育センター(ERIC)編 原書“Values and Visions”>

あ	愛らしい	きちんとしている	ずばぬけた	話好きな
	明るい	器用な	せ 誠実な	恥ずかしがりやの
	あたまの良い	機転のきく	清潔な	バラのような
	愛情深い	気がつく	洗練された	ひ 人好きのする
	暖かい	気持ちの良い	そ 素質のある	非常に素晴らしい
い	偉大な	く くじけない	た たくましい	ふ ふくよかな
	いばらない	け 傑出した	楽しい	へ 平和的な
	一番良い	見識のある	大胆な	ほ 朗らかな
う	うそのない	元気な	大評判の	誇りある
	美しい	こ 公正な	卓越した	法律を守る人
	麗しい	心配りをする	頼れる	ま まめな
え	笑顔の素敵な	幸福そうな	ち 注意深い	み 魅力的な
お	思いやりのある	さ さっぱりした	智慧のある	身だしなみの良い
	面白い	さわやかな	力になる	む め 無垢な
	穏やかな	ささうとした	力強い	面倒みのよい
	恐れを知らぬ	才能が輝いている	つ 強い	も もの静かな
か	完全な	し しっかりした	て 天才的な	や や 優しい
	快活な	親しみやすい	と とても素晴らしい	ゆ 百合のような
	かわいい	趣味の好い	堂々としている	有能な
	かわいらしい	上品な	洞察力のある	優秀な
	可憐な	正直な	特別な	優勝した
	華麗な	信頼できる	友だちの多い	よ 陽気な
	我慢強い	親切な	な なごやかな	ら 楽観的な
	学識のある	慎重な	何でもできる	り 理解のある
	活動的な	辛抱強い	に 人気者の	理想的な
	感じのよい	実直な	ぬ 抜ぎでた	理想主義の
	関心な	熟練している	ぬ もりのある	立派な
	歓迎される	上手な	ね 熱心な	る ルンルン気分の
	歓迎する	す すっきりした	の 能力のある	れ 礼儀正しい
	がんばる	素晴らしい	の んきな	ろ ロマンティックな
き	気のやさしい	素敵な	は 馬力のある	わ 若い

あたまの良い中国人 注意深いアラブ人 などとなる。これは読み上げて発表させると授業がおおいに盛り上がる。

生徒の表現にはある共通性がみられ、ノルウェー人には「かわいい」「美しい」「素敵な」といった美辞麗句が多いが、途上国の民族には「がんばる」「たくましい」「器用な」「我慢強い」といった生活感の強い形容詞がつけられる。そのなかにはその民族の持つ気質を象徴するような表現もあって生徒の感受性の強さに驚かされる。

ここで大切なことは、イメージの問い直し。

すべてのフレーズが好意的な形容詞で描写されていることにある。肯定的な表現を繰り返すうちに異民族に対して心を開き、受け入れるメンタル

トレーニングができる。

とくに途上国の民族に対して差別、偏見を持った生徒には有効であった。民族を形容する適切な言葉をさがすうちに、その民族の生活や文化を知り、自然と異文化理解の心構えができることや、自己の感性とクラス全員の多様な感性を共有することで自己のマイナスイメージが払拭できること、などである。このようなトレーニングで生徒の感性を豊かにさせ、地球人としてグローバルな認識を身につけさせたいと思っている。生徒が差別や偏見を乗り越え互いに認め合うヒューマンイズムあふれる授業をめざしたい。